

国際ロータリー第2580地区（東京・沖縄）

東京武蔵村山ロータリークラブ

Tokyo-Musashimurayama Rotary Club

週報 No.1590

2004-05年度 国際ロータリーテーマ 「ロータリーを祝おう」 会長 グレン E. エステス. シニア
国際ロータリー 第2580地区
2004-05年度ガバナー 小堀 啓介



東京武蔵村山ロータリークラブテーマ

「足元から地道な奉仕活動を」

第33代クラブ会長 清水 高彦

「元気、やる気、根気（三気）を
10月は米山・職業奉仕月間です。」

本日の例会
4RC合同例会

第1591回
例会
2004. 10. 20

次回例会案内【10月28日(木)】
裁判員制度の研修会

第1590回例会報告

司会 田中 伸彦 SAA委員長

点 鐘 (清水 高彦 会長)

斉 唱 奉仕の理想

来客紹介 (清水 高彦 会長)

- お客様
米山奨学生 呉 祥松 様



出席報告 (比留間 重次 出席副委員長)

会員数	出席者数	出席率	前々回出席率修正
33名	25名	84.85%	66.67%→72.73%

- 事前メーキャップ
石井賢司会員、栗原高明会員、波多野稔ガバナー補佐
→ 分区連絡会
- メーキャップ (第1588回)
網代雅男会員→ 拡大増強委員長会
栗原高明会員→ 地区ローターアクト委員会

会務報告 (清水 高彦 会長)

- 「再・ロータリー随想」を頂きました。
- 産業まつり PRコーナーへの出店依頼
(別紙記入の上 返送)

幹事報告 (藤野 豊 幹事)

- 4RC合同例会 一部変更の案内
・プログラム 10月20日(水)
西武信用金庫 村山支店 16:00 出発
・バス駐車場
・当日 クラブ旗を持参
- 比留間孝司会員 事務所移転
〒207-0014
東大和市南街1-2-2 ホワイトハウス 2F
TEL 042-566-8841
FAX 042-566-0114

委員会報告

なし

◇ 創立 1972年7月8日 ◇ 承認 1972年7月20日
◇ スポンサークラブ 東京立川ロータリークラブ
◎ 会長 清水 高彦 ◎ 幹事 藤野 豊
○ 副会長 後藤 正次 ○ 副幹事 原田 友義
□ 会報雑誌委員長 原田 友義 副委員長 野島 征
委員 石井 源一郎 宮崎 茂夫

◇ 例会場 西武信用金庫・村山支店2階
〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
◇ 例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
◇ クラブ事務局
〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
TEL 042(520)3251 FAX 042(520)3252
Eメールアドレス t-mmrc@crest.ocn.ne.jp

卓話 「ロータリー財団について」

ロータリー財団委員長 川島 利男 会員



ロータリー財団月間に当り、委員長として少々勉強したことを発表させていただきます。

◆ 財団の目標

ロータリー財団の目標は、博愛・慈善・教育または人道的という特質を持つ明確かつ効果的なプログラムの促進を通じて、さまざまな国の国民のあいだに

理解と友好関係を助長することである。

◆ 組織として

ロータリー財団地区委員会がある。

1人の委員長と7人の小委員長によって構成される。

- 1) 年次寄付
- 2) 恒久基金
- 3) 奨学金
- 4) 研究グループ交換
- 5) 補助金
- 6) 学友
- 7) ポリオ・プラス

以上の小委員会である。

◆ ロータリー財団国際親善奨学金とは、

- ・1学年度国際親善奨学金
他国で1学年度勉学する。
- ・マルチ・イヤー国際親善奨学金
他国で学位を目指し、2年間勉学する。
- ・文化研修のための国際親善奨学金
3ヶ月または6ヶ月間、他国で集中的に語学研修を受け、他国の文化に溶け込むためのもの
- ・ジャパン国際親善奨学金
日本語研修と日本文化に触れる機会を提供するもの。
- ・低所得国のための奨学金基金プール

国際親善奨学金の目的

- ・親善使節と文化交流
- ・ロータリーの奉仕プロジェクトへの積極的参加
- ・ロータリーと奨学生との間に生涯を通じての結びつきを育む
- ・その他

受領できる奨学金とその資格

ロータリー財団奨学金候補者は、指導力、コミュニケーション能力奉仕への熱意など、その程度を測ることのできる「親善使節」として優れた資質を立証しなければならない。大学課程を少なくとも2年修了か、高校卒業している、職業に少なくとも2年間従事していなければならない。

◆ プログラムの実施に当って（カウンセラーを置く）

ガバナーは地区に留学してくる海外の奨学生のホストロータリー・クラブ及びそのクラブから、ホスト地区顧問ロータリアンを任命する。任命されたロータリアンは、奨学生を地域社会に溶け込ませ、また、ロータリーの活動に関与させ、留学後も奨学生との連絡を絶やさないようにしながらロータリーの理想と活動を奨学生に教育する責務を負う。

プログラムの中の一つとして国際人道的プロジェクトのための「マッチング・グラント」（旧同額補助金）と言うものがあります。

このプログラムは、

- 1) クラブと地区の国際規模の相互交流によって国際性の推進
- 2) クラブがよりよい社会奉仕ができるようにする。
- 3) 個人の積極的参加を含むクラブおよび地区の小規模で1回限りの人道的奉仕プロジェクトに資金提供する。
- 4) クラブと地区の世界社会奉仕の道具となる。
- 5) 恵まれない人々の生活の質を高める。
- 6) その他財団（RIプログラム）の支援のないものへの支援

知っておきたいプログラムの色々

- 1) ヘルピング・グラント
ロータリークラブがない地域や遠いという理由で、参加監督が得られない地域で国際奉仕プロジェクトを実施できるようにするもの。
- 2) 災害救助援助金
- 3) 保健。飢餓追放および人間性尊重補助金（3H）
 - ・Health（ヘルス） 健康・健全
 - ・Hunger（ハンガー） 飢え・空腹
 - ・Humanity（ヒューマニティー） 人間性、人道、人情以上の頭文字が3Hです。

- ・ロータリーボランティアのための補助金
- ・世界社会奉仕助成金
- ・新人道的補助金
- ・平和プログラム
- ・ポリオ・プラス

ポリオ・プラスは、国際ロータリーの特別プログラムであり、撲滅の証明が達成されるまで、他のすべてのプログラム以上に優先される。

◆ ポリオ・プラス・パートナー

特定の一般社会動員や監視活動に寄付することによってポリオ撲滅という目標にすべてのロータリアンが参加出来るようにしたもの。

◆ 財団学友

元ロータリー奨学生、元研究グループ交換参加者、元大学教員補助金受領者、ロータリーボランティア補助金受領者は、世界社会奉仕助成金や新人道的補助金の一環として旅行した人とともに、すべて、ロータリー財団の学友となる。

- 1) 帰国次第、すべての奨学生を正式に迎える
- 2) 帰国した奨学生が主として派遣地区で義務づけられている講演を完了できるようにする。
 - a) 帰国後、最初の1年にロータリー行事で少なくとも5回講演する。
 - b) 帰国後、ロータリー以外の人を前にして少なくとも3回講演する。その他、有望なロータリークラブ会員の候補者とみなす。

以上、R財団の活動（プログラム）の一部を説明いたしましたが、大変にむずかしく、マニュアル本が有る位です。本日は寄付金についてはお話ししませんでした。ポール・ハリスフェロー、マルチプル・ベネファクター等があります。是非、勉強してみてください。11月はR財団月間です。会員の皆様の協力をよろしくお願いします。

[担当：石井 源一郎]



ニコニコBOX（内野 義久 親睦副委員長）

今回のニコニコはありません。

◆ 今回計 0円 累計 464,000円